

# 複数武道種目授業

# 実践の紹介

## 「武道推進モデル校」事業を活用した 複数種目（柔道・空手道・合気道）の実践

新潟県胎内市立築地中学校  
前校長 丸田 磨里

胎内市は新潟県の下越地区（県北部）に位置し、「自然が活きる、人が輝く、交流のまち」をキャッチフレーズに、平成17年に中条町、黒川村の合併により発足した。本校は旧築地村にあり、中条町立を経て、現在に至っている。

少子高齢化に伴い、本校の生徒数は令和元年度について2桁となり、令和2年度は84名、令和3年度は75名となっている。本稿ではスポーツ庁による武道等指導充実・資質向上支援事業を活用して実施した令和2年度の柔道・空手道・合気道の実践を紹介する。



校舎全景

### 1 はじめに

本校は平成30年度まで、武道の授業は柔道を学んできた。令和元

年度から武道等指導充実・資質向上支援事業により、複数の種目の

外部指導者を派遣していただけることとなった。そこで、令和元年度は柔道と空手道、令和2年度はこれに合気道を加えた指導者の派遣を受け、生徒の武道に対する視野を広げ、武道への学びを深め

きつかけとなっている。小規模校のため、職員数も少なく、非常勤講師や外部指導者との連携が必須である。

今回の複数種目の武道の実施により、生徒たちに武道の魅力や奥深さを、その道の専門家の指導で体験してもらうことが可能となった。そして「相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする」「自己の責任を果たそうとする」などの学びに向かう力をつけてもらいたいと考えた。



集団での形の練習



片手取り角落とし（合気道）



前受け身（柔道）

外部講師として、柔道は本校OBでもある胎内市スポーツ協会の五十嵐聖一氏（七段）、空手道は全日本空手道連盟系東会新発田支部の渡辺和徳氏（公認五段）、合気道は新潟県合気道連盟の小柳健也氏（六段）と若手の指導者をお招きすることができた。

柔道・空手道・合気道の指導計画

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
種目	空手道	合気道	柔道						
学習の流れ	準備運動 (礼法・本時の確認等)								
	礼法座学	受け身 (前受け身、横受け身、後ろ受け身)							
		後ろ受け身	けさ固め 横四方固め			支えつり込み足			
	形の練習	体さばき	固め技乱取り			大腰			
		片手取り 角落とし							
演武・実技鑑賞			振り返り (本時の振り返り・礼法)						

表1・第3学年の単元計画



突きの練習 (空手道)



外部指導者による模範演武 (合気道)

(1)実践のねらい

- ・専門知識と高い技能を有する外部指導者と連携し、3年間を通じて継続的に授業を行うことにより、生徒の学びに向かう力を高め、武道に親しみながら安全に基礎・基本の定着と技能の向上を図る。
- ・武道の指導経験の少ない教員が、外部指導者の専門的な指導方法を学び、指導力の向上を図る。

(2)多様な武道の指導モデル(表1)

(3)指導の工夫

▼効果的に指導するための工夫

- ・柔道の特性に触れさせるための指導の工夫
- ・礼法やマナー、柔道の歴史や特性については、最初の授業で重点的に取り扱うとともに、毎時間丁寧に伝えながら授業を行った。また、資料を毎時間黒板に掲示し、生徒の興味・関心を高めるようにした。
- ・安全に配慮した柔道授業の指導内容や指導方法の工夫
- ・指導者との事前打ち合わせで、指導内容に関しては生徒の力量・習熟度を確認しながら、安全第一での指導をお願いし



段階的な指導 (柔道)

た。また、安全に学習ができるよう、授業の前半に受け身練習を必ず行った。

▼生徒の安全を確保するための工夫

- ・体育館に畳とマットを敷いて柔道を実施し、全員で声をかけながら行った。また、生徒が柔道着に着替えている時に、外部指導者と教員で畳に隙間がないか細かくチェックした。
- ・手足の爪、ヘアピンなどの装飾品やポケットの中の点検、柔道着の着方などの指導を徹底した。
- ・生徒が同時に活動する場合、活

動場所の配置や十分なスペースの確保、声かけに留意した。

・投げられた時に安全に受け身ができるよう、毎時間受け身練習をくり返した。

(4)授業の様子

授業では各武道の凛とした空気の中で進められた。講師の丁寧な指導のもと、生徒は安全に留意しながら、真剣に学習を進めることができた。また、「本物」に触れることで、自分の考え方や将来の目標について考えを深める発言が多かった。

(5)生徒の意識、感想、変容など

単元実施後の事後アンケートでは、「将来(武道を)やってみてくくなった」「オリンピックで競技を見るのが楽しみ」「心の持ち方が大切だと分かった」「練習相手のことをよく考えないといけない」「身長や体重だけではないと感じた」などの感想があった。複数の種目を体験ができたことで、武道に対する理解が一層深まったと考えられる。

その他にも「楽しかった」「またやりたい」とする意見が多く、毎年継続して実施していくことでその効果を期待したい。(表2)

好評発売中

小笠原清忠 (弓馬術礼法小笠原教場) 三十一世宗家 著

# 武道の礼法

相手に誠心が響く礼法を小笠原流礼法宗家が直々に指南する、武道関係者必読の一書。



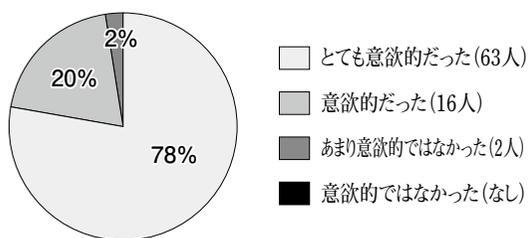
四六判・上製・278頁

◎ご注文・お問い合わせ◎

日本武道館 月刊「武道」編集部  
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3  
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158  
http://www.nipponbudokan.or.jp

意欲的に学習できたか (人)

	とても意欲的だった	意欲的だった	あまり意欲的ではなかった	意欲的ではなかった	計
全校	63	16	2	0	81
1年生	23	3	1	0	27
2年生	19	3	0	0	22
3年生	21	10	1	0	32
合計	63	16	2	0	81



空手道・合気道の授業は楽しかったか (人)

	とても感じる	感じる	あまり感じない	感じない	計
3年生	27	4	1	0	32

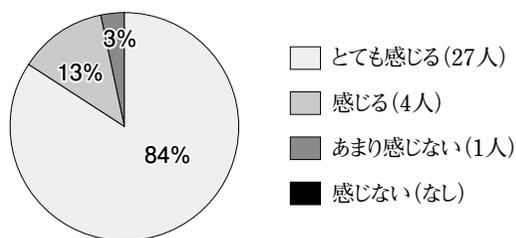


表2・授業後アンケート

(6) 成果と課題 (授業者より)

令和2年度も外部指導者との連携を通して、「安全第一」で授業を終えることができた。安全な授業を心がけ、礼法や基礎・基本の習得を大切にしながら授業を3年間継続して行うことで、3年生は立ち技を行った際、素直に受け身ができるようになっていた。

また、毎年同じ外部指導者と連携することで、前年度の生徒の様子や技術の習得状況に応じて、安全に配慮した段階的な指導を行う

ことができた。

教員も、外部指導者の指導のポイントやわかりやすい声かけ、練習の進め方などを学ぶことができ、他学年の授業や次年度の指導に活かすことができた。武道を熟知している指導者を十分に活かせるよう、打ち合わせ時間を確保し、授業改善を図っていきたい。ぜひ来年度も複数種目の学習を継続した形で指導していただける体制をお願いしたい。

3 おわりに

武道の持つ「他者を尊重する態度」は、生徒の学校での学びにとって重要な「学びに向かう力」を育成する要素になると考える。

今回の複数種目による武道の授業実践は、様々な視点から武道の本質に触れ、生徒の体験の幅を増やし、他者と共に学ぶ、異なる意

見を取り入れる、共に最後までやり抜く、などの大切な学びを得たものと確信している。多様な学びを大きな経験として、生徒たちが将来に向けて大きく成長することを期待したい。